



2023年4月1日発行
1947年10月27日
第3種郵便物認可
発行所/日本YMCA同盟
東京都新宿区本郷町2-11
THE YMCA神戸版
神戸YMCA
〒650-0001
神戸市中央区加納町2-7-11
Tel 078-241-7201
Fax 078-241-7479
www.kobeymca.org
発行人/井上真二
編集人/松森正樹
印刷/有わかばやし印刷

YMCA News



年間聖句

「平和や互いの向上に役立つことを追い求めようではありませんか。」
ローマの信徒への手紙14章19節より



学校法人 神戸YMCA学園評議員 ^{たかだ ひろゆき} 高田 裕之さん
(社会福祉法人・学校法人 イエス団常務理事)

ひとと地域とYMCA

トルコ・シリアの地震で被災された方々の苦難に思いを馳せ、神の特別ななぐさめがありますよう切に祈ります。

阪神・淡路大震災から28年が経ちました。年月とともにいろいろなことが語り継がれなくなります。このたび、機会が与えられましたので、当時、神戸市長田区にありました西神戸YMCAの活動を振り返りたいと思います。

地震発生後、余震が続き、交通、通信機能麻痺の中、全国のYMCAから救援物資が届き、物資配布の必要に迫られ、救援活動が始まりました。YMCAのネットワークは、「YMCAに頼めばすぐに必要なものが届く」と地元の人びとから大きな信頼を得ました。救援活動の当初から、西神戸YMCA会館の入り口に10カ条ほどの救援活動の枠組みとルールを示し、同意した人をYMCAのボランティアとして受け入れました。活動時にはYMCAゼッケンを全員に付けてもらいました。西神戸YMCAは40年近く地元での活動実績があったので、ゼッケンを付けたボランティアは、無条件で地元の人びとの信用を得ました。

救援活動の最盛期には、毎日、200～300名のボランティアが活動に参加しました。活動範囲は長田区、須磨区、兵庫区で、それぞれ地域割りを行い、1つの地域を1グループ10名程度で担当しました。基本活動は、午前中に直接地域で情報収集を行い、午後から情報を基に物資の配布や家の片付けなどを手伝えました。効率的な活動のために10名ほどのボランティアで事務局を設け、情報集約、救援物資の手配、関係機関との連絡調整を行いました。

ボランティアの受け入れは日帰りからOK。合言葉は「あなたも明日からリーダー」。ボランティア活動2日目にはリーダーの役割を果たすことができるような仕組みが自然と出来上がっていました。ボランティア元年。依頼を受け、長田区役所でボランティア受付の窓口も開設しました。

西神戸YMCAには保育園があり、園再開までの間、保育士は避難所に出向き、居場所のない子どもたちのために遊びを提供しました。救援活動後半になると、孤立した高齢者の話し相手などの活動が増えました。そして春になると学生たちは学校へ戻り、ボランティアの数も大幅に減りました。行政や福祉・教育機関、商店などが再開されました。活動は救援から復興段階に入りました。

西神戸YMCAは震災直後から「阪神大震災地元NGO救援連絡会議」の看板を掲げていました。それは地元の団体として息の長い復興活動を意識していたからです。震災以前の活動の再開とともに新たな課題にも取り組もうとしていました。しかし結果、その思いと願いは、新たな地で「西神戸YMCA」という名のもとに引き継がれ今日に至ります。

100年前の関東大震災では、神戸から賀川豊彦とともにYMCAも救援活動に加わりました。以来、YMCAには弱い立場にされた人びとに寄り添ったたくさんの経験と支援の手立てがあります。歴史を重ね多くの理解者がいます。非営利団体として、ひととひと、ひとと地域、ひとと世界、違いをつなぐ友情のネットワークがあります。

まさかのとき、非常時に本当の姿が見えます。その意味で、阪神・淡路大震災での活動により、YMCAが地域に必要とされるひとの集まりであると改めて認識されたのではないのでしょうか。



違っていいんだよ、違いっておもしろいよ

～ピンクシャツデーの取り組みから～

2022年度のピンクシャツデーは、神戸キリスト教青年会国際委員会から「いじめをなくそう」だけの構図ではなく、「違っていいんだよ、違いっておもしろいよ」とYMCAにつながる人たちに伝えていきませんか、という呼びかけがなされました。

ある部門では、小学校の子どもたちの「あなたが悲しいとき、寂しいとき、嫌な気持ちになったとき、声をかけられて明るい気持ちになるうれしい言葉」を集めました。「いっしょにあそぼう」「いっしょにごはんをたべようよ」「ずーっと大好きだよ」「元気だして」「一人じゃないよ」「どうしたの?」「そのシャツ似合ってるね」など、それぞれのうれしい言葉がたくさん集まりました。かけられてうれしい言葉は、人それぞれ違います。みんなそれぞれ違いがあり、その違いを見つけて責めるのではなく、認め合えるような人になってほしいとYMCAは願っています。



Pick up

2023年度がスタートします

神戸YMCA 会長 中道 基夫
総主事 井上 真二

第20回の世界YMCA大会で採択されたビジョン2030や全国YMCAで推進している日本YMCA中期計画を踏まえながら、「神戸YMCA中期計画VISION2030」を策定し、私たちの使命、私たちの願い、そして使命実現のための柱を定めました。これを基に各事業の2023年から2025年の3ヵ年計画を策定し、これからもキリスト教使命を基盤に、我々の価値を高め、社会に必要とされるYMCAを目指していきます。

私たちの使命

私たちは、すべてのいのちが尊ばれ、互いに支え合う平和な社会を創ります。

私たちの願い

私たちは、世代を超えた人々が出会い、つながり合う場をつくり、日本YMCA基本原則に基づき豊かな未来を創造する責任ある人を育てます。

神戸YMCAのすべての活動がポジティブネットを広げ、希望ある豊かな社会を創り、社会に必要とされることを目指していきますので、皆様のご支援、ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

使命実現のための柱

- ◆未来を創る子どもたちの育ちを支えます。
- ◆若者のつながりと関わりを拡げるプラットフォームの場をともに創ります。
- ◆ポジティブネットのある豊かな社会を目指します。
- ◆未来の社会への責任を担います。

2023年度の年間聖句とその想い

「平和や互いの向上に役立つことを追い求めようではありませんか。」
(ローマの信徒への手紙14章19節より)

「平和」とは捉える人によって価値が変わり、そのことによって平和な状態が保たれていない状態が続いています。この聖句には「互いの」という、誰か一方の見方に偏ることがない表現があり、命令ではなく呼びかける語り口になっています。このことから、どなたにも受け入れられる箇所だと考え、職員や役員の皆さまから推薦をいただいた中から、この聖句を選定しました。

この聖句を推薦された岩井義矢さん(神戸YMCA職員)に、その想いを聞きました。

パウロはこのローマの信徒への手紙の中で、イエス・キリストの愛、それは一人ひとりへの神様からの良き知らせ(福音)であるということをもさまざまな形で伝えようとしています。その根底には自身も迫害する立場から救われた経験があり、民族の違いや文化・習慣の違いを問題にするのではなく、背景は違えども互いに愛し合い、赦し合い、仕え合う「一致の大切さ」を語っています。

私たちの社会は未曾有のコロナ禍という閉塞感に覆われて3年間が経過しました。加えてロシアによるウクライナ侵襲から1年が経ち、お互いを認め合う先にある平和というものが実現しにくく、遠く感じることも事実です。しかし、そのような時だからこそ、平和を追い求めること、また互いの向上を追い求めること、

それを一人ではなく、身近な人と、置かれた家庭・コミュニティで、YMCAに関わる人々(会員・生徒・リーダー・スタッフ・保護者・ワイズ)の間で求め続けることが大切だと思います。この互いの向上を追い求めることこそ、YMCAウエルネスの定義です。

平和のゴールは遠いかもしれません。向上にも時間がかかるかもしれません。でも「しなさい」と命令されてではなく、自身で考え、行動し、「わたしも」「あなたも」一緒に求めている！と「Let's」で表されるこのポジティブな御言葉に後押しされ、賛同・参画の輪を拡げる過程こそ、YMCA運動の強みだと思います。

こどものスポーツ

ファミリーウエルネスセンター

1月、2月にはこどもたちのスポーツの大会、発表会が数多く行われました。中西日本YMCA水泳大会、中西日本YMCAユースバスケットボール大会、YMCA淡路サッカーチャレンジカップ、YMCA体操発表会。一つひとつが年度の締めくくりとなるプログラムです。

どの大会、発表会も勝敗、タイム、点数で結果が表されます。結果はすべてこどもたちが受け止め、それが成長の糧になります。しかし結果だけでなく、日々工夫し、前向きに取り組み、スポーツを楽しむことが、こどもたちの大きな成長につながります。

体操発表会での場面です。短い演技時間ではありますが、その中で常に考えて演技をします。考えるという行為は、自分と話をする時間です。特に体操では「指先まで伸びているだろうか?」「着地の時、足が揃っているだろうか?」そんなことを考えます。審判員ら、外からの評価もありますが、こどもが自分と対話する、その目に見えない時間こそが、まさに成長している瞬間です。こどもたちがそれぞれのスポーツの醍醐味を味わいつつ成長する瞬間を共にできることに感謝です。



日本語弁論大会 文部科学大臣賞受賞!

神戸YMCA学院専門学校日本語学科

2月10日(金)に東京で「第35回 全国専門学校日本語学習外国人留学生日本語弁論大会」が開催されました。全国の日本語学校、専門学校から日本語を勉強している外国人学生14名が集まり、スピーチを披露しました。

神戸YMCAからは、ミャンマーの学生のメイ・ジン・トウさんが参加し、見事に「文部科学大臣賞」を受賞しました!スピーチの題名は「私の言葉、届いていますか」です。メイさんは、5ヵ国語を話せる方ですが、コミュニケーションは言葉と言葉ではなく、伝えたい気持ちと相手を理解しようとする心が大切であるという内容でした。スピーチの内容、技能、話し方すべて素晴らしかったです。

メイさんは5年前に母国で、日本語を勉強している学生によるスピーチコンテストを見て、このようなコンテストに参加することが彼女の夢でした。5年間見続けた夢をやっと日本で叶えたと喜んでいました。おめでとうございます!



次世代運営会議「自由と公共性と、イエスの問い」

COVID-19はさまざまな脅威をもたらしましたが、非常時の思考は研ぎ澄まされ、今となっては福音とも言える出来事がいくつもありました。その内の一つが2020年から始まった次世代運営会議です。

管理職ではない、現場を守る、いわゆるディレクターが集い、「自分たちが運営の責任を担う立場であれば」という視座に立って議論します。これまで気候変動、ジェンダー、貧困など、YMCAの使命と社会との接点に留まり、議論してきました。

2年間続けた今でこそ、活発な議論が交わされますが、初めはそうではありませんでした。ではどんな

条件が整えばいいのか？まず会議に何か答えめいたものや知識の獲得を求める構成員に、議論そのものが重要であることを伝えます。議論を通じて「知識を社会化する」ことが、公共性を帯びた営みなのです。

次に、上位職はファシリテーターを除き参加せず、記録によって内容を確認してもらうことで公平性と透明性を保ちます。「予期」によって成り立つ組織集団の営みの中では、いくら自由にしていと言われても、権力関係が自動的に働くので(地位附従性)、よほど意図的に振る舞わない限り自由ではないからです。

しかし、単に議論を野放しにしているだけでも何も生まれ

チーフディレクター(職員) 阪田 晃一

ません。そこで私たちはイエスに立ち返ります。史的イエス論によれば、イエスはユダヤ教徒でありながら、敬虔なユダヤ教徒を批判しました。さまざまな事情で、律法を守ることすらできない人々のことを想ったからです。

イエスは常に「本当にこれでいいのか？」と問い続けました。いつでも存在の根源に立ち返り、個人の中に、関係性の中に、そして構築された秩序の中に、イエスの力が働き続けるときにこそ、時が経つのも忘れるような熱い議論が交わされるのです。

R E P O R T

神戸YMCAちとせ幼稚園

チューリップが咲く頃

クリスマスの準備をする頃に、チューリップの球根を植えました。

2月のある日、プランターをのぞき込むこどもたちの姿が…。見ると、土から何かがたくさん顔をのぞかせています。「僕たちが植えた球根！芽が出る！」と満面の笑みのこどもたちでした。

みんなで大切に育てたチューリップの球根。寒い冬の間は、目には見えなくても地中でしっかり根を伸ばし、立春が過ぎた頃には、時を知っていたかのようにちゃんと芽を出し、花を咲かせる準備をして

いる…。その姿は、進級、進学していこうとしているこどもたちの姿と重なります。きっと、この記事が皆さまのお手元に届く頃、チューリップはきれいな花を咲かせ、また、こどもたちは、進学、進級の時を元気に迎えていることでしょう。

根っこをしっかり伸ばし、それぞれに花を咲かせることができるように、いつも見守って下さっている神さま。それぞれがふさわしい時に咲けるように備えて下さる神さま。2023年度もこどもたち一人ひとりが輝けますように、どうぞお守りください。



西宮市立 用海留守家庭児童育成センター

遊びの中で育つ

「カチカチ、カチカチ」、センター内に響く音。「こうしたら、うまく入るよ」など、友達と励まし合いながら、けん玉に取り組んでいるこどもたちがいます。

用海育成センターでは、入所時に「マイけん玉」をプレゼントしています。けん玉の持ち方や片づけ方などから始まり、とめけん、世界一周など、さまざまな技に挑戦しています。けん玉検定中は、友達が成功するよう、固唾をのんで手を合わせて祈りながら見て、成功したときには「やったー、すごい!」、失敗したときには、「あ〜、もうちょっとやったな」と、一喜一憂してい

ます。誰かと比べるのではなく、また、技の向上だけを目標にするのではなく、取り組む姿勢、友達との関係など、いろいろな視点をもって励んでいます。

「目標を達成するために頑張る力」「最後までやり遂げる力」「他人への思いやり」など、遊びの中で楽しみながら、自然と非認知能力が育っています。壁にぶつかったときでも諦めず、人とかかわりの中、解決のためにアイデアを出し、切り抜けられる人に成長してくれることを願っています。



こくさいのまど

韓国・スウォンYMCA 来神！

2月17日(金)、韓国・スウォン(水原)YMCAが海外ゲストとして神戸を訪問してくださいました。関西国際空港で「アニョハセヨ! こんにちは!」と握手で挨拶を交わせたのは大きな喜びでした。

2020年に事務総長に就任したイ・クワンヒ氏、職員とボランティアの方々にとっては、初めての来神となりました。イ事務総長からは「海外YMCAを訪問するのなら、まずはパートナーYの神戸を訪問すると決めていた」という、うれしいお言葉をいただきました。

滞在期間中、双方の近況報告や今後の交流の可能性について語り合う時間が与えられました。今後の日韓交流プログラムの発展に期待です。

神戸YMCAには6つのパートナーYがあります。これからもたくさんの方々やYMCAの世界のネットワークを通して出会い、つながり、離れていても気遣いあえる仲間と一緒に作っていきたいと思います。世界に友達がいるということは、世界の平和をつくる第一歩だとYMCAは考えます。



YMCA STORY

神戸YMCAとミッション

ミッションって何だ、額に掛けてあるキレイゴトのことか…。そんな本音も聞こえることがあります。

企業は顧客にとって良いものを供給し、売上を上げることによって利潤の最大化を目指します。神戸YMCAのような非営利組織は、企業では賄えない(多くは目に見えない)独自の価値を目指し、社会や個人に貢献しようとしています。キレイゴトではない、組織が存在する目的こそ、ミッション(使命)であると言えるでしょう。

企業であれ非営利組織であれ、社会や個人に受け入れられるためには卓越した魅力(差別化)が必要です。凡庸を脱しなければなりません。市場競争下において、企業は絶えず商品やサービスを磨き上げ卓越性を維持していかなければ倒産に追い込まれます(それが経済発展の原動力です)。非営利組織も卓越したサービスが不可欠で、それは自身の存在目的であるミッションを持ち、他にない卓越した魅力として活動することが不可欠です。独自のミッションこそ卓越した魅力の原動力なのです。その上で、それが具体的にアピールできる方策が立案され実践されることが必要です。

名譽会員 しまだ ひさし 島田 恒 さん

かつてYMCAも、いち早くニーズを捉え、予備校事業、フィットネス事業等を成功させてきました。しかしながら、社会のニーズが拡大し、企業を含む市場競争が激しくなるにつれ、YMCAの活動は凡庸化し卓越性を維持することが難しくなってきたという歴史があります。

私たちは、YMCAのミッションを事業や実践に浸透させ、独自の魅力を発揮することが必要だったのではないのでしょうか。Bodyのみならず Mindや Spiritに迫る卓越性を活動の中にもっとしっかり織り込むことはなかったでしょうか。

ミッションをしっかり掲げ、それをみんなが感じられる魅力として展開する中で発展が得られ、それに呼応する人材がボランティア、職員としてよこんで貢献していく道筋が与えられると考えます。私自身もひととき神戸YMCA常議員として微かに貢献に参与し、苦勞もありましたがそれに勝るよこびをもって過ごせたと思います。

YMCAの経営は正にMission-Based Managementによって発展し、目指すところが実現していくのだと思います。

感謝!「絵本プロジェクト」

ワイズメンズクラブ国際協会西日本区六甲部から神戸YMCAの子育て支援の各施設へ絵本の贈呈があり、1月28日(土)に神戸YMCA三宮会館チャペルにて贈呈式が行われました。この「絵本プロジェクト」は、こどもたちの健全な成長に少しでも寄与したいというワイズメンズクラブの皆さまの思いから始められた活動です。この場をお借りしまして感謝申し上げます。

イースター早天礼拝

日時 2023年4月9日(日)
7:00~8:00

場所 神戸YMCA三宮会館チャペル

メッセージ 水野 宏明 さん(神戸YMCA職員、ミッション委員会担当主事)

この早天礼拝は、1922(大正11)年4月に諏訪山金星台でもたれた復活節早朝讃美礼拝で始められたものです。共にイエス様のご復活をお祝いいたしましょう。

神戸YMCA創立記念礼拝

日時 2023年5月13日(土)
15:00~16:30(14:30開場)

場所 神戸YMCA三宮会館チャペル

メッセージ 神田 健次 先生(関西学院大学 名誉教授)

今年で神戸YMCAは創立137年を迎えます。創立者に思いを馳せ、すべてのいのちが尊ばれ、互いに支え合う平和な社会を創るため、共に祈りを合わせたいと思います。礼拝終了後、お茶の会を予定しております。

神戸YMCA大会(総会)

日時 2023年6月24日(土)
13:30~17:30(予定)

場所 神戸YMCA三宮会館

神戸YMCAに関わる人たちが一堂に集まり、世代を超え、これからの歩みを確かめ、将来に向け語り合い、楽しく喜びがあふれる一日とすることを願い、神戸YMCA大会を行います。内容につきましては、改めてご案内いたします。なお、総会はこの神戸YMCA大会の中で開催いたします。

【お問合せ】 神戸YMCA本部事務局 TEL.078-241-7201 Eメール info@kobeymca.org

神戸YMCAの使命

神戸YMCAの願い

私たちは、すべてのいのちが尊ばれ、互いに支え合う平和な社会を創ります。

私たちは、世代を超えた人々が出会い、つながり合う場をつくり、日本YMCA基本原則に基づき豊かな未来を創造する責任ある人を育てます。
(神戸YMCA中期計画VISION2030)

第3回 ワイズメンズクラブ日本区東西交流会

六甲部国際・交流事業主査
田辺 征一 さん(神戸学園都市ワイズメンズクラブ)

2月4日(土)・5日(日)、上記の交流会がワイズメンズクラブ国際協会設立100周年と東西日本区25周年を記念して、ANAクラウンプラザホテル神戸で約450名の参加のもと盛大に開催されました。開会式では「東西日本区25周年の歩み」「YMI100周年記念/アジア太平洋地域事業の紹介」「ラオスにYMCA設立アピール」が報告されました。特に京都パレスクラブが取り組んでいる、仏教国ラオスにYMCAホテル学校を設立する計画には熱いものを覚えました。交流会に先立ち、ロータリーなど3奉仕活動団体を迎えてフォーラム「共に考えよう! 奉仕・SDGs」を開き、これからの奉仕活動の在り方などが熱心に話し合われました。

2日目は早天礼拝の後、3分科会(ぶら神戸、Y's Song fest、語ろうワイズの未来)のうちのひとつに参加。リーダーたちによる「Y's SDGs Youth Action 2022」報告では頼もしい未来を感じさせていただきました。

閉会式では実行委員長の感極まった挨拶に心打たれました。密度の濃い2日間を滞りなく終えることができたのは多くの準備と奉仕の賜物です。マーシャルスタッフとしてご奉仕いただいた六甲部の皆さまに感謝いたします。

感謝・寄附

(敬称略、順不同) (前号掲載以降~2/15現在)

寄附

岩沖 富子、住野 和子、山本 常雄、山口 洋子、
社会福祉法人頌栄会認定こども園頌栄保育園、
神戸YMCAベルクワイアー

チャリティーラン協賛金

松森 正樹、岩井 義夫、中道 基夫

国際協力募金

小田 浩、福田 陽子、上杉 直子、中野 ひな、上谷 円、
うどん な也、株式会社神川工務店、
株式会社サンビルダー、株式会社ウイング、
ボンヌール写真室、学校法人頌栄学院頌栄幼稚園、
学校法人啓明学院、社会福祉法人イエス団友愛幼稚園、
社会福祉法人頌栄会頌栄児童館、
社会福祉法人頌栄会認定こども園頌栄保育園、
社会福祉法人頌栄会認定こども園西鈴蘭台頌栄保育園、
社会福祉法人聖ミカエル福祉会聖ミカエル幼保連携型
認定こども園、あかしこども広場職員有志、
神戸ワイズメンズクラブ、宝塚ワイズメンズクラブ、
神戸学園都市ワイズメンズクラブ

ウクライナ支援募金

山本 常雄、中田 杉子、
学校法人松蔭女子学院松蔭中学校・高等学校、
社会福祉法人イエス団幼保連携型認定こども園のぞみ
保育園、宝塚ワイズメンズクラブ
この他にも、多数の募金・寄附をいただいております。
感謝をもってご報告します。

ファミリーウエルネスセンター
ランゲージセンター
専門学校
西宮YMCA
余島野外活動センター
デイキャンプ&コミュニティサービス(兼キャンプ事務局)
国際・奉仕センター
ウエルネスセンター学園都市
西神戸YMCA
神戸YMCA高等学院
YMCAおひさま

☎078(241)7202
☎078(241)7204
☎078(241)7203
☎0798(35)5987
☎0879(62)2241
☎078(241)7216
☎078(241)7204
☎078(793)7401
☎078(793)7402
☎078(793)7435
☎078(793)9077

西神南YMCA
須磨YMCA
YMCA保育園
西宮YMCA保育園
西神戸YMCA保育園
神戸学園都市YMCAこども園
神戸YMCAちとせ幼稚園
YMCAちとせ保育ルーム
西神戸YMCA幼稚園
西宮つとがわYMCA保育園
あかしこども広場
学園都市YMCA保育ルーム

☎078(993)1560
☎078(734)0183
☎078(794)3901
☎0798(35)5992
☎078(792)1011
☎078(791)2955
☎078(732)3542
☎078(786)3821
☎078(997)7705
☎0798(26)1016
☎078(918)6355
☎078(794)3045

